

製図受験対策

製図の受験対策は大別して、**長・中期的対策**と**短期的対策**、及び**直前対策**が考えられる。

直前対策：製図課題が発表され、学科合格が認知されれば、だれしも取り組まざるを得ないが、合格発表後の3週間だけでは効果の上がる勉強は何も出来ないのは当然である。

直前対策はそれまで**長・中期的対策**と**短期的対策**によって得た知識をプライオリティ毎（大きな減点、細かな減点）にまとめ、自分が練習・模擬課題で間違えた箇所を復習。解答例などのブライントレースにより自分の最少作図所用時間を把握し、エスキースの許容所要時間を知り、時間配分の確認を行う。あとは本試験場の確認、生活のリズム調整といった項目がテーマとなる。

短期的対策：

多くの受験生が学科試験後の10週間の内土日の延べ20日間を利用して、課題に即した練習課題と添削、トレースを繰り返すことにより、

- 課題に対する知識
- オーソドックスなエスキース手順
- 作図時間の短縮

これら各テーマについて一定の効果を見込むことができる。

しかし、近年の課題におけるエスキース難度が増している傾向と、実務におけるキャド化が進み、手書きの作図に慣れていない受験生が多い現実から、**長・中期的対策**の必要性が注目されつつある。

長・中期的対策：○エスキースが予定時間内にまとめられない。

- 作図時間がかかり過ぎる

これらの症状には、受験者それぞれに固有の原因(時には複数)が存在し、原因によっては**短期的対策**では克服しきれないものもある。課題の発表されていない7月以前の段階で、過去の課題にトライし、ウィークポイントを知って、その処方箋を受ければ、学科の勉強をしながら短時間の反復練習によりウィークポイントの矯正と基礎能力のレベルアップが期待できる。

